

第16回縮小社会研究会の報告

38名が参加しました。農薬漬けから省農薬や有機農業に移行していった理由や過程を実体験をもとに論じられました。

時：2013年7月20日、14時-17時、
所：京都大学農学部総合館 W106

自民党政権になり、経済成長路線を進もうとしています。まさに、成長か縮小かの岐路に立っていると言えます。また、TPPで日本の農業を壊滅しそうです。今回は農業において、活動されてきたお二人に講演をしていただきます。

講演会は会員のみならず、一般にも公開しております。参加費は会員は無料、非会員は500円です。

1. 「省農薬農業の40年」 石田紀郎 市民環境研究所代表理事

一人息子の農薬中毒死から始まった農民（和歌山県海南市）による農薬問題の提起と省農薬栽培の実践40年間と病害虫調査などで協力してきた京大農薬ゼミの活動成果を報告し、省農薬農業の可能性を考える。

2. 「有機農業から考える縮小社会」 本野一郎 全国有機農業推進協議会理事

成長路線が行きづまり、持続可能な農業生産＝有機農業が求められる。その広がりが、農的くらしを基礎とする“たべもの協同社会”を生み出すだろう。農業文明から農的文明へのパラダイムの転換を展望する。